

## 富士山 登山

今年度も、7月6日～8日、2泊3日の行程で富士登山へと第2学年が行ってまいりました。

初日の行程は、河口湖でのカヌー体験。ここでは、3人1組となり、救命胴衣の付け方から、漕艇の基本技術まで教わりました。始めはボートを岸から離すのにもひと苦労といった様子でしたが、約3時間の体験の間、最後にはレースをするまでに上達しました。

翌日、富士山5合目から元気に登山を開始。心配された天気もまずまず良好で、友人同士励ましの声を掛け合い、午後5時頃には全員が第1の目標である8合目に到着しました。

睡眠不足からくる高山病や足の痛み。それらをこらえ、自分の限界にチャレンジし、山頂でご来光を拝もうと、さらに上の目標、9合目を目指しました。山頂『剣が峰』には、3分の1の生徒が登頂に成功しました。



## 内観研修

「建学の精神」の一つ「報謝の至誠」を具現化するための学校行事として、中学校1年生の夏に5泊6日の内観研修を行っています。研修では、0歳から年ごとに区切って現在に至るまで思い出し、調べていくのです。そして研修中は



一切話さず無言で一心不乱に自分自身のことを調べ上げ、その結果を、生徒一人ひとりが和尚様との一对一の面接で報告します。和尚様はその報告をしっかりと聞いて下さり、報告が終わるとまた次の年について調べるように指示を下さいます。内観を続けていくと、生徒自身が「していただいたこと」



や「迷惑をかけたこと」はたくさんあっても「して返したこと」はほとんどないことに気づかされ、両親を始め、お世話になっているすべての物事に対して感謝の念をより一層強めていくことになります。

## 幼稚園を取り巻く環境

ここ数年で幼稚園教育を取り巻く環境は、大きく変わろうとしています。「母親の育児負担の軽減」などが、少子化対策につながるとして、構造改革特区で認めている幼稚園の2歳児入園が来年度から全国に拡大されます。就学前の子どもに関する教育、保育の総合的な提供の推進として『認定こども園』制度がこの10月から施行されます。また、この4月には文部科学省は幼児教育振興アクションプログラム(素案)で、幼稚園教育の条件整備に関する国の施策が示され、その中では幼稚園と小学校の連携を推進するとともに、未就園児の円滑な

幼稚園就園を進めることにより、幼児の発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図るとしています。一方豊明市に目を向けてみますと、ここ10年で外国人(主にブラジル人)が約1000人増加しています。通訳が必要となっている保育園もあります。自治体との対応、また多様化する保護者のニーズにどう対処していくか、課題となっています。



## 創立35周年記念講演会

### 「歩くということ～くつは足のお友だち～」

星城大学リハビリテーション学院 理学療法士 三宅わか子先生  
歩くということは、一生使う移動の手段です。姿勢と運動の発達は1歳までが著しく、立って歩くということは足だけで体重を支えていくことです。1歳をすぎると生涯立って歩くことになります。生後5ヶ月から2歳ごろまでが足が最も伸びる時期で、その後伸び方は減少していきます。足が大きくなることは骨の成長によるものですが、こどもの足は足幅が広く、指の部分が扇型、土踏まずが未形成です。骨格の基本は6歳頃決まり、しっかりとした骨になるまでには14～16年ほどかかります。あわない靴を履いていると外

反母趾、扁平足、凹足などになりやすくなります。良い靴の選び方は、つま先はやや広く余裕のあるもの、足首くらいまでの深めのもの、でくるぶしを包み込むもの、地面からの衝撃を吸収でき滑りにくい靴底が良いでしょう。

